

これまでの経験が
財産になっています

亀岡市
山内 和恵 さん



保健師を目指したのは、短大卒業後バブルが崩壊したこともあり、やはり手に職をと考えたのがきっかけだ。実習で亀岡市に配属されたのが縁で就職し、上司に半ば強引に亀岡市に移住させられたらしい。

「今思うと、私生活も地域住民の中で過ごした方がいいという考えだったのかなと思います。」

平成3年に就職してから、何度も組織編成を経験している。国から事業がどんどん降りてくる中で、一番大事にしなければならないことは何なのか、上司と議論を重ねた。基幹型在宅支援センターに出向していた時は、始まったばかりの介護保険制度の中で皆が何をすべきなのかよく分かっていない状況だった。基幹型が果たす役割や、これからの方針について試行錯誤しながらやってきた。介護予防という目的を在宅看護や医療とも共有していくために、研修会も行った。

「そうした経緯もあり、保健師であっても行政の役割や会計を知っていた方がいいと思い、育児休暇の間、大学で公共政策について学びました。」

淡々と話すが、とても努力家だ。ただ目の前の仕事をこなしていくのではなく、なぜ行政がその事業を行う必要があるのか、ベテランらしい視点で考えている。現在は地域医療と介護福祉の連携を担って3年目になる。一人職種ではあるが、他部署とのキャッチボールは欠かせない。そんなとき以前一緒に仕事をした仲間が関連部署にいて、すぐに話が通じるので助かっている。

「介護にいた時の経験が今財産になっていて、有り難いなと思います」
新たな事業を提案し、関係者がやってみようという気になってくれた時、とてもうれしい。現場で必要とされていることや、こうしたらもっと良くなるということをスピード感を持って形にしていきたいと語った。